

# 芝構成員資料

# 災害とラジオ放送

1995.1.17 神戸から

神戸市外国語大学 芝 勝徳

# 何がどのように伝えられたか

- 1995年1月17日 被災地地元の民放ラジオ局を中心に
- 停電と電話不通・発信規制の状況下での放送
- 現場状況中継の災害報道(救命・救援要請)
- 被災者、地域の市民からの安否情報、救援情報
  - 地域の被災者と行政・ボランティア・近隣地域との橋渡し

# ラジオは被災者にどう聞かれたか (1.17を中心に)

- 地震直後、一番最初に接触したメディア  
(日本新聞協会調査n=300 避難所等)
  - 新聞(号外含む) 12.0%
  - NHK・民放テレビ 18.6%
  - NHK・民放ラジオ 67.6%
  - CATV 0.0%
  - 行政からの広報誌 1.3%

- 地震に関する情報を最初に得た情報源（朝日放送調査）
  - 避難所n=182 ラジオ70.3% テレビ13.7%
  - 被災地・自宅n=218 ラジオ68.8% テレビ25.7%
  - 周辺地域n=200 ラジオ21.0% テレビ76.0%
- ラジオの持ち出し率（文化放送調査N=285）
  - 現金・通帳 28.4%
  - 衣類・寝具 26.0%
  - 懐中電灯 20.0%;
  - ラジオ 16.1%
  - 食料・水 4.9%
  - なし 53%

- 最初にラジオに接した状況（朝日放送 避難所N=182）
  - 手元のラジオ 33%
  - 車載のラジオ（移動中を除く） 15.4%
  - 車載のラジオ（移動中） 3.3%
  - 近所の人からのラジオ 23.6%
  - 避難場所で始めて聞いた 17.6%
  - ラジオは聞いていない 6.0%

- ラジオへの評価

- 地震直後から暫くの間最も頼りになった情報源(朝日放送調査)

- 避難所 ラジオ61.0% テレビ12.1% 新聞7.1%
    - テレビより詳しい(地域密着の)情報を流していた
    - 配給場所、時間等がわかった またラジオを聞いていた人からも情報を得られた
    - 聞いているだけで恐怖心が薄らいだ
    - 恐ろしい映像のないぶん冷静に行動できた

- ラジオへの評価の変化(発災後1ヶ月後)

- 普段ラジオを聞いていなかった人が地震後ラジオを聞くようになった 42%

- 地元ラジオと他のメディアとの比較での評価
  - ○○町○丁目○番地 までの詳細な情報は土地勘のある地元局でないと放送できない
  - 必要な情報を細かく何度も放送しつづけてくれた
  - テレビの情報は被災者にはあまり役にたたなかった
  - テレビの災害報道は哀れみ半分、同情半分で腹がたった
  - テレビが伝えきれない細かい情報や見落としがちな問題を指摘してくれた
- 報道だけではない
  - 音楽も心に届く
  - 「何百人もがいる避難所は私語がなく驚くほど静かだった。1台のラジオの音を集中して聴いていた」



# 15年前にラジオでできなかったこと

- ラジオ局側の視点（民放）
  - 災害の全体像がシステムの的に最後まで把握できなかった（情報源、人、システム、情報量、経営等の資源）
- 十分な周辺放送局との連携
  - 広域におけるAMラジオの防災協議会やキャンペーン（NHK含む）
  - 衛星による中継回線（JFN）や被災地でのコミュニティFMでの文字放送連動
- 外国人や身障者への配慮
  - FM局では多言語による放送を行っていた
- コミュニティFMがまだ機能していなかった
  - 多国語放送等の特色ある放送につながっていく

# 災害時の情報伝達

- 避難手段・場所としての自家用車の位置づけ
  - バッテリー、発電機、ラジオ、ナビゲーションを備えた情報拠点であり短期間の居住空間
  - 一方、被災地を通りがかりで車で被災する例も多い
- 携帯電話の機能・役割とラジオ
  - ワンセグ放送はラジオのように機能するのか？ 特にラジオで有効であった地域情報
  - 海上等カバーできない地域もある

- 同報防災行政無線との補完
  - 昨年の台風による水害被害(兵庫県佐用町での状況)
  - 防災行政無線を情報源とした割合 50%弱(整備が進んでいた地域)で、避難に関して家屋から受信機をあまり持ち出していない
- ラジオ放送の観点から都市難聴や屋内での電解強度やノイズの問題
  - 帰宅難民が聴けるのか
  - 住宅の構造や屋内におけるデジタル機器等の雑音
  - CATVや通信サービスへの依存
    - ローテクの方が有効な場面がある

# 行政組織から見た災害報道

## － 神戸市が震災から得たいくつかの教訓

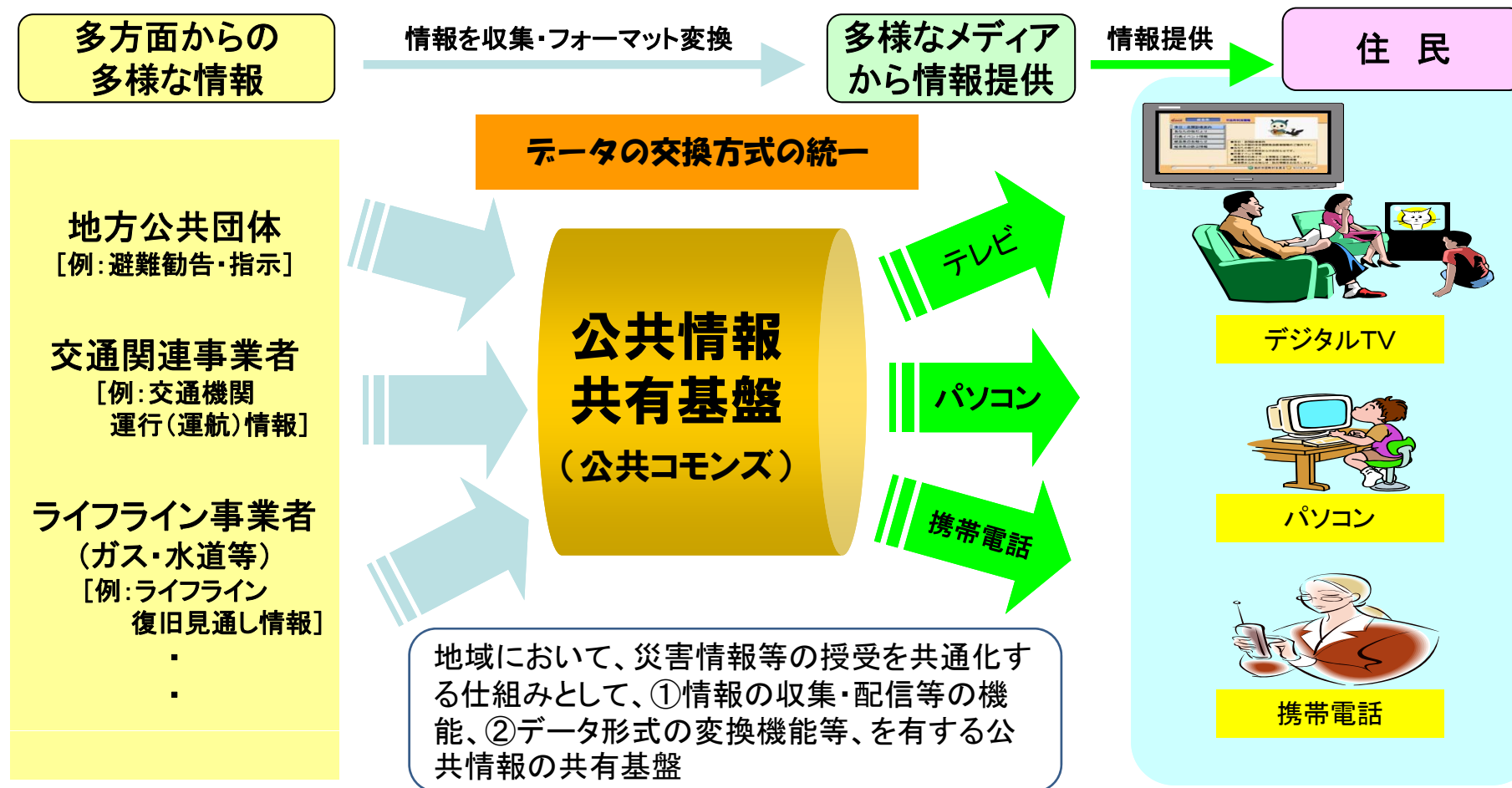
- 情報入手、広報手段の多様化
- 地域防災計画の中へ広報の実践的な位置づけとマニュアル整備
- 地元地域放送メディアとの連携、関係機関との組織連携
- 障害者や外国人への伝達手段の確保（ベトナム語、ポルトガル語等）
- 日常的なメディアの使用と連携＝普段使用しないメディアは非常時には使えない
- 生活情報の提供は民間メディアとの連携の方がよく伝わる

# 公共情報基盤（公共コモンズ） の取り組み

- 地域がもつ問題点や課題
  - インターネットや携帯電話の普及、デジタル放送の特色を生かした伝達手段等メディアが多様化していることにより行政が十分に対応できていない
  - 情報入力や伝達にさける人的、時間的な資源が少ない、できない等の問題
  - 放送局等から見ても、情報源や伝達手段の多様化、情報量に対応できない
    - FAXがまだ伝達方法の主流
    - デジタル（電子化されたテキストや画像）がまだ放送等に直結できない

# 公共情報共有基盤(公共情報コモンズ)の概要

地域の安心・安全に係るきめの細かい正確な情報を、迅速かつ効率的に様々なメディアから入手できるようにするための公共情報の流通基盤



## H21年度 実証実験の概要

実験タイプ		日程／参加予定団体	
<b>シナリオ実験</b>		第1回(2月22日)	第2回(3月8日)
災害発生を想定して情報の入力、配信を行い、機能面、運用面の検証を行なう。	コンピュータ間連携による情報発信	兵庫県	気象庁(ファイル渡し) 新潟県、岐阜県、滋賀県 大阪府、兵庫県
	情報入力ツールによる情報発信	新潟県、岐阜県、三重県、滋賀県 京都府、大阪府、兵庫県、奈良県	三重県、滋賀県、京都府 兵庫県、奈良県
	コンピュータ間連携による情報受信	NHK、サンテレビ、BAN-BANテレビ NTTドコモ(エリアメール)	
	情報表示ツール、メール機能等による 情報受信・表示	全参加県及び県下市町村の一部 読賣テレビ、関西テレビ、毎日放送、ABCテレビテレビ大阪、 サンテレビ、BAN-BANテレビ、姫路CATV、ラジオ関西、 FMわいわい、神戸新聞	
<b>運用実験</b>		2月23日～3月5日	
試験データや実データを一定期間継続的に公共情報基盤を経由して運用を行い、実用化に向けたシステム面、運用面の検証を行う。	コンピュータ間連携による情報発信	新潟県、岐阜県、滋賀県、大阪府、兵庫県	
	情報入力ツールによる情報発信	三重県	
	コンピュータ間連携による情報発信	NHK、サンテレビ、BAN-BANテレビ	
	情報表示ツール、メール機能等による 情報受信・表示	全参加県及び県下市町村の一部 サンテレビ、BAN-BANテレビ、姫路CATV、ラジオ関西、神戸新聞 FMわいわい 中京テレビ、東海テレビ、名古屋テレビ、テレビ愛知 他	

# 市町村による入力

Microsoft Excel - 集中入力フォーム

00市 避難勧告・指示情報 送信

報告日時 平成22年2月15日 15時51分

名称・所在地 マルチメディアセンター

電話番号 03-5403-1090

FAX 03-5403-1092

担当者 危機管理室主幹

電子メール XXX@XXX.co.jp

災害名称 台風00号

見出し文 避難勧告 発令 02月15日午後03時50分(小域1、小域6、小域11) 00市

通達内容 改行追加

発令区分別	対象世帯数	対象人数
管区域		
避難指示		
避難勧告		
避難準備		
合計		

地区選択

発令内容

変更前	変更後	発令解除日時	地区名
⇒	避難勧告	2010/02/15 15:50	小域1
⇒	避難勧告	2010/02/15 15:50	小域6
⇒	避難勧告	2010/02/15 15:50	小域11

避難状況一覧		
避難勧告		
00市		
中域1		
小域1	2010/02/15 15:50	
小域6	2010/02/15 15:50	
小域11	2010/02/15 15:50	

電子規制データ

# 放送局等での画面表示

安心・安全 公共COMMONS

現在の情報テロップバー 現在のトピック スナップショット検索

## 後01時27分(光都一丁目) 佐用

【避】【災害対策本部設置状況】佐用町 警戒本部 設置 2月8日大雨(0)

- 宇根 [避難勧告・指示情報]宇根;避難勧告 発令 (2010/02/15 10:00:00)
- 山脇 [避難勧告・指示情報]山脇;避難勧告 発令 (2010/02/15 10:00:00)
- 佐用 [避難勧告・指示情報]佐用;避難勧告 発令 (2010/02/15 10:00:00)
- 奥海 [避難勧告・指示情報]奥海;避難勧告 発令 (2010/02/15 10:00:00)
- 平松 [避難勧告・指示情報]平松;避難勧告 発令 (2010/02/15 10:00:00)
- 平松 [避難勧告・指示情報]平松;避難指示 解除 (2010/02/12 18:00:00)
- 真城 [避難勧告・指示情報]真城;避難勧告 解除 (2010/02/12 18:00:00)
- 桑野 [避難勧告・指示情報]桑野;避難勧告 解除 (2010/02/12 18:00:00)
- 奥海 [避難勧告・指示情報]奥海;避難指示 解除 (2010/02/12 18:00:00)



# 被災地におけるラジオ放送局の 試み

- ラジオ関西JOCR 558KHz(単営AM局)
  - DTMF信号の割り込みによる簡易デジタルサイネージの設置と運用
    - 低域帯域を利用した端末起動や符号伝達の実用化
  - 県域のコミュニティ放送との連携(連絡協議会、番組交換活動など)
  - 「兵庫防災ネット」(14万人を対象としたメール配信)や地域ポータルサイト運営の事業化等インターネットへの対応
  - Twitterを応用した首都圏文化放送JOQRとの災害報道番組等の取り組み(2010.1.11)
    - メールよりも即時性の高いリスナーとの連携の可能性

## ゲリラ豪雨被害2008. 7. 28を受けて設置された回転灯



兵庫県下100カ所以上に設置  
AM波を受信して起動

気象警報等を放送局側で受けて

公共コモンズと連結して個別鳴動  
等を実験予定(2010.3.8)

神戸市灘区都賀川

# 地域のコミュニティFMの試み

- FMわいわい(神戸市長田区)
- 日本語、韓国・朝鮮語、中国語、タガログ語、ベトナム語、タイ語、ポルトガル語、スペイン語、アイヌ語、英語の10言語で生活・地域・行政情報などを地域在住の日本人、外国人に放送する。外国語番組では、外国人コミュニティが主体となり地域に発信していく。また、インターネット放送により「長田」から「世界」へ発信し、言葉・文化・国境のバリアフリーに取り組む。

# コミュニティ・メディア としてのラジオ

- 欧州会議議決(2008.9)より抜粋、要約
  - コミュニティ・メディアは貢献先のコミュニティに責任をもって係る非営利団体である
  - コミュニティ・メディアは自らの行動や決定を必ずコミュニティに知らせ、その妥当性を示さなければならない。過ちを犯した場合にはペナルティを受けなければならない
  - コミュニティ・メディアは社会の多数派の声を代弁するのではなく、他のメディアには見落とされがちな地域に多様に存在する比較的小規模な集団に的を絞って活動を行う

## - 決議内容

- ・ コミュニティ・メディアは特定の集団のアイデンティティ強化に役立ち、同時に社会の他の集団とつながることを可能とする。社会寛容と多様性を促進し、異文化間対話に貢献する
- ・ コミュニティ・メディアはコミュニティのメンバーにトレーニングの機会を提供する上で非常に重要な役割を果たし、職業訓練へとつながるハブとして機能しうる。人々はデジタル、ウェブ、編集のトレーニングを受け、有益で応用の効く技術を身につけることができる
- ・ 政治的に中立であるべきである

- インナーシティコミュニティと深い連携
  - 外国人や障害者住民による番組制作
- 災害をきっかけとして設立され継続
- 小出力放送局が世界とつながっている
  - 世界コミュニティラジオ放送連盟(AMARC)
  - ハイチでの被災地コミュニティラジオの立ち上げ支援
- 多言語による防災デジタルコンテンツの制作と普及
  - 総務省、JICA等と放送用音源

# マルチメディア放送への期待

- ・ 地方のAM局の経営問題
  - 放送設備の老朽化、巨大で地震災害に弱いアンテナ、軟弱地盤でのアース
- ・ ネットとの連携
  - メタデータの最大限の活用
  - 輻輳やコンテンツ配信コストの解決手段としての放送
- ・ 位置情報と組み合わせた放送
  - 移動体におけるオートチューニング
- ・ コミュニティ・メディアとしての期待
  - 公共放送、商業放送という2元論からの脱却
    - ・ コミュニティFMは小出力の商業放送という性質だけなのか？

# 参考

1. スライド中の朝日放送、日本新聞協会調査は以下の文献を参照しました

『阪神大震災とラジオ：震災放送の検証と提言』 日本民間放送連盟音声放送委員会 1995年8月

2. 発表中の音源については

『最初の一週間：阪神・淡路大震災 1995年1月17日 情報の空白を埋める』 CD-ROM 神戸新聞社, サンテレビジョン, AM神戸(ラジオ関西) 1997

『Disaster management ; Audio Materials for Community Radio Broadcasting CD-ROM JICA HYOGO, Disaster Reduction Learig Center [2009]

ISBN 4-903645-91-6